

技術と倫理

技術的に可能なことと倫理面からやっていることとは異なるもの。どんなに技術が進んでも子どもは第三者によって作るものではなく夫婦で授かるものという気持ちを忘れてはならない。

治療と計画性

治療の終了をどこに置かを決めずに、ただ体外受精を続けている状態の方が多くのように感じます。長く続けることは決して悪いことではありませんし、私たちも頑張っている患者さんにお子様を授かっていただきたく取り組んでいます。しかし、“今回はたまたまできなかっただけで次ならできるかも”とズルズル治療が長引き、なかなか治療をやめると言い出せない方もいるようです。

治療は、妊娠したらそこで終わりというわけではありません。治療が終わっても、妊娠、出産を無事に乗り越えなければならないですし、その後も子育てが始まります。子育ては、子供が大きくなるまで続きます。そうした将来に不妊治療をしたことでマイナス要因を抱えないよう、治療計画を立てていただきたいと思います。

何よりも安全性

安全性の高い技術の提供であることが何よりも大切です。

新たな治療法は！？

あらたな治療法及び、対象年齢の規定があれば、妊娠率は上がるかもしれません。

進歩と限界

培養器や培養液の進歩により以前よりは妊娠率も高くなりつつあるが、ある程度の限界もあるように思っています。

情報にご注意を

良い情報ばかりが記憶に残っている患者様が増えてきているように感じます。40歳を越えて妊娠したとネットで書かれていることも多いので、自分も大丈夫と思いIVFイコール妊娠と思ってIVFセミナーへの参加者が増えてきています。そして体外受精すればすぐに妊娠できると思っています。

年齢への取組みを

体外受精が標準的な治療になりつつあるが、年齢が大きく結果に左右するので、若い人になるべく早く治療に取り組めるような指導や制度の拡大を希望する。

根本原因を

治療の技術として、AMHIはじめ、いろいろなことが検査できるようになり、進歩はしています。ただ、根本となる妊娠しにくい原因の改善ができる方法を考えられたらと思っています。

POIの治療方針

早期閉経(POI)の方への治療方針がはっきり出せるとよいと考えています。

IVMからiPSへ

今は未成熟卵の体外培養(IVM)があるが、将来的にはiPS細胞により配偶子作成技術の革新が重要と思われます。実際に臨床の現場にでてくるのは、相当先のように思われますが…。

海外と同様環境を

世界的な標準医療はARTの分野においても日本国内で海外同様施行できるような環境にしたいと思います。

適応を守ろう

体外受精の適応が甘くなっており、容易にその治療が用いられる傾向にあるように思われます。また、本来不必要な症例にまでICSIが実施されているように思われます。

未来への心配

体外受精によって遺伝子の異常が起こり、それが代々遺伝していき、突然、表現型の異常が起きたりしないだろうか、根拠のない心配ですが、気になっています。

治療の適正実施を

必要な症例に対してのみ、非生理的な治療が適正に実施されるように望みます。

年齢と生殖の知識

やはり高齢化にともなう生産率の低下が問題です。国民全体に生殖についての知識を広められればいいと思います。

FTの問題性

FTカテーテル治療が安易に、数多くの施設で営利目的化されているのではないかと懸念しています。

日本の保険医療財政にとって、マイナスになっているのではないのでしょうか。

大半は、「FTカテーテル治療」後も結局はARTへ移行している現状だと思っています。

ドナー胚

ドナー（夫婦以外の第三者提供）胚によるARTも一般的になっていくと思っています。

着床前診断

着床前診断は必須になると考えています。

しっかりと検査を

基礎的な不妊検査や基礎疾患の治療を行うことで、多くの方が体外受精以前に妊娠します。日本は先進諸国のなかで突出してIVFの頻度が高いのに、成績が低いと言われていますが、治療のベースを大事にして、盲目的にしっかりと検査をして診療を積み重ね、元来の適応通りに考えることで、より良い結果に結びつくのではないかと考えています。

患者半減の前に

今後、出産年齢に該当する女性は減少し、5年間で現在の半数となることは明らかです。患者数低下に医療以外のサービスで対応しようという流れがあるが、医療の本質を忘れずに地道に診療をすすめていきたいです。

治療の質が大事

今はARTのバブル時代であり、最終的にはキチンとした治療を行っている施設のみが残ってゆくのではないかと思います。

病院は選別されて行く

不妊であれば何でもARTというように進むのではなく、患者個人にあった治療から進んでいく病院が重視されるようになると思います。今後は、不妊患者の減少により、病院が選別されていくと思っています。

夫婦にある傾向

性生活が上手く行かない患者さん夫婦が多いです。妊娠を目指しているのに、夫婦間で性生活が持たなければ、お子さんは生まれてきません。そのようなご夫婦にとって、病院での治療がもっともストレスのない子づくりになっているようにも思います。